オランダの経験とアドボカシイ

ヨラーン・サンテゴーツ
マインドライツ財団, オランダ

世界精神医療ユーザーサバイバーネットワーク
精神医療ユーザーサバイバーヨーロッパネットワーク

精神医療の経験

- 強制医療
- 苦痛
- 支援がないこと
- **強制は助けにはならない、むしろ悪くなる**

私のリカバリー過程

- 自由
- 友人
- 新しい展望

- ホームレスの人たちのほうが精神医療のスタッフより私にずっとよく対応してくれた

- 居場所を見つけた
- 勉強を始めた

アドボカシーのスタート

- 文章によるメッセージ
- 自発的なポスターアクション
- 広報
- 新聞の発行
- ホームページ

- 独房に反対する非公式なグループを始める
「隔離に怒りをぶつける行動グループ」

活動

- 独居拘禁（保護室隔離）に反対するキャンペーン
- 進歩的な看護師
- 独居拘禁（保護室隔離）を減らすプロジェクト
- オルタナティブ開発

- 独房（保護室）での男性の死亡
- 公開討論

隔離を減らすプロジェクト

- 看護師の目標: 毎年10 % 減
- **強制から集中的ケアへ /**管理支配から支援へ

良き実践を定義する:

- **予防は治療よりよい**
  - 苦痛の初期の信号,
  - 接触しコミュニケーションを取る ,
  - よい関係性
- **危機的状態が拡大することがないように緩和する**
  - 技術、柔軟性と創造性
- **オルタナティブな選択肢と施設**
- **友人や家族の役割**

精神科における
高度ケア/集中的ケアの開発

- 高度ケア開発の南部ネットワーク
  - VUMC医学大学
  - いくつかの精神保健ケア施設

- **2015年: 2 施設において隔離はほぼゼロに近づいた**

- プロジェクトは強制的投薬あるいは他の強制医療の低減は含んでいない
- 障害者権利条約の啓発や意識向上は基礎となっていない

2008年:法律改正の過程

- **3つの法律の調和**
  - 精神、知的、そして司法
- **「段階的治療」アプローチ**
  - 裁判官が治療の領域範囲を決定する,
  - 治療の場は変えられる
  - システム全体で治療命令は使える
- **強制的介入は無制限**
- **<u>どこにいるユーザーにもなんでもできる</u>**
- **地域における強制医療**
  - 粗野な介入, 良いケアではない

2009年: マインドライツによる、対案

- 危機的状況にある人をいかに助けるのか
  - 求められているのは社会的解決策
- **ファミリーグループカンファレンシング**
  - 自分の近くにいる人々とオルタナティブを見つけ、**自分自身の計画を作る**
  - オランダのパイロットプロジェクト
  - 2015年7月17日から20日　訓練セミナー
- 2010年:「精神保健ケアにおける保護室に対する革新的な抵抗活動」に対しアイントホーヘン市長による報奨金

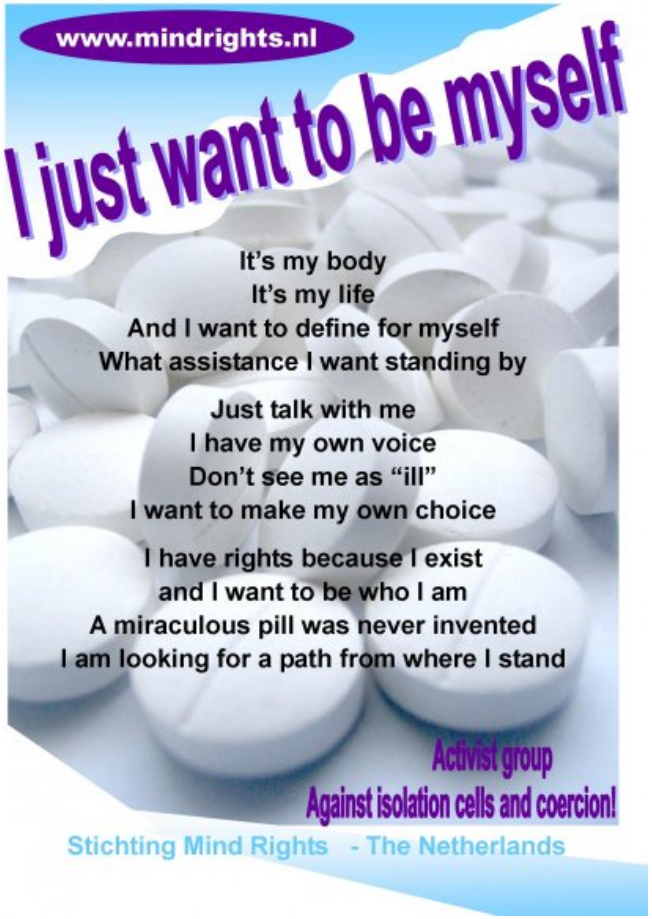
精神医療に対する不服申立て

- 2002年: 弁護士を見つける
- いくつかの段階を過ぎた
- 2008年: 弁護士が病気になってしまった
- 他に弁護士が誰も受けようとしない、不服申立てへの支援が全くない
- 2010年: 国連拷問に関する特別報告官への不服申立て (Juan E. Mendez)
- 2013年: 国連委員からオランダへ
- **2015年: 未だ調査も救済や賠償もない**
- **<u>精神医療の免責</u>**

国連障害者の権利条約

- **オランダは国連障害者権利条約を批准していない**
- アドボカシー
- 傘下組織を持つ障害者団体「インクルージョンへの連合」
  - マインドライツ財団も参加している
  - オランダの精神保健ケアへのプラットホームはより大きな組織だが混合組織

強制投薬に反対する
マインドライツのリーフレット



Links:

- Email Jolijn Santegoeds: tekeertegendeisoleer@hotmail.com
- Mind Rights: www.mindrights.nl

- European Network of Users and Survivors of Psychiatry (ENUSP): www.enusp.org

- World Network of Users and Survivors of Psychiatry (WNUSP): www.wnusp.net